

# 尼崎市立歴史博物館第2回特別展

## 初代尼崎市長櫻井忠剛と勝海舟・川村清雄

明治から昭和初期にかけて板に油画を描き続けた川村清雄と櫻井忠剛という、共に勝海舟と深い縁で結ばれた洋画家師弟がいました。師は晩年まで大作を手掛け、生涯を洋画家として過ごしましたが、弟子は人生の後半を尼崎町長・尼崎市長として送りました。しかし、弟子は行政に身を投じてからも作画を続け、師の画業を誇りとし、生涯に渡り師を敬愛しました。

本展では、洋画界で異端とされた師・川村清雄との関わりを中心に、洋画界から忘れ去られた弟子・櫻井忠剛の生涯を紹介します。



川村清雄《江戸城明渡の帰途》（勝海舟江戸開城図）（東京都江戸東京博物館所蔵）



川村清雄《梅に雀》（日黒区美術館所蔵）



櫻井忠剛《薔薇》（当館所蔵）

観覧無料

令和4年(2022)10月1日(土)～11月30日(水)

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
休館日 月曜日、ただし10月10日（月・祝日）は開館し、翌日が休館  
会場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室

### 水曜歴史講座 受講無料

日時 9月14日・10月12日・11月9日 各日午後2時～4時  
会場 当館 3階 講座室  
演題 9月14日 尼崎の洋画家・櫻井忠剛  
（芦屋市立美術館 大槻晃実学芸員）  
10月12日 特別展展示資料解説（当館学芸員）  
11月9日 川村清雄と櫻井忠剛の交流（当館学芸員）  
申込 各月5日から当月分を電話・FAX受付 定員先着各70名

### 記念講演会 受講無料

日時 10月29日(土) 午後2時～3時30分  
会場 当館 3階 講座室  
演題 川村清雄-櫻井忠剛が求めた師-  
講師 東京都江戸東京博物館 落合則子学芸員  
申込 10月5日から電話・FAX受付 定員先着70名

### 展示解説 参加無料

日時 10月1日(土)・9日(日)・23日(日)、  
11月13日(日)・23日(水・祝)  
いずれも午後2時～3時  
会場 当館 3階 企画展示室  
申込 事前申込不要 定員先着各20名



尼崎市立歴史博物館

AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2  
電話 06-6489-9801（歴史博物館文化財担当）  
電車・バス…阪神電車尼崎駅から南東へ徒歩約10分  
自動車…玉江橋線開明橋交差点から東へ約500m

隣接する市営城内駐車場（有料）をご利用ください

[https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/bunkazai\\_0/index.html](https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/bunkazai_0/index.html)

当館では新型コロナウイルス感染防止対策を行っています。ご観覧の皆様のご協力をお願いいたします。また、感染の拡大状況によって、臨時休館や入場制限等を行う場合があります。



いわゆる「コロナ禍」の中、令和2年(2020)秋に開館いたしました尼崎市立歴史博物館は、たくさんの市民の皆様、ご来館いただいた御客様に支えていただき、開館2周年を迎えました。これを記念し、第2回特別展「初代尼崎市長櫻井忠剛と勝海舟・川村清雄」を開催いたします。

大正5年(1916)、初代尼崎市長に就任し、一時退任時期はあるものの、通算12年余り尼崎市長を務めた櫻井忠剛は、慶応3年(1867)、尼崎藩主松平家(後の櫻井家)の分家に生まれました。明治初期に東京へ遊学し、姉の栄子が勝海舟長男の勝小鹿に嫁いだことにより勝家の親類となり、勝海舟が支援していた洋画家・川村清雄の門下生となって洋画家への道を歩みました。京都に移った明治30年代には関西を代表する洋画家として活躍し、尼崎に帰郷後は尼崎町長・尼崎市長を歴任しましたが、その間も川村清雄を師と仰ぎ、尼崎で作画活動を続けました。

本展では、櫻井忠剛と勝海舟との関わりをまず紹介し、櫻井忠剛の生涯を師・川村清雄との関わりを中心に紹介します。尼崎市の初代市長が、明治維新の英傑である勝海舟の親類であり、近代日本洋画の巨匠である川村清雄の門下生であり、そして関西洋画草創期に活躍した洋画家であったこと、さらには、地元尼崎にも洋画作品を残したことなどを知っていただけましたら幸いです。



明治15年(1882)撮影写真。向かって右が櫻井忠剛、その隣が勝小鹿夫人となった姉の栄子です。(当館所蔵)



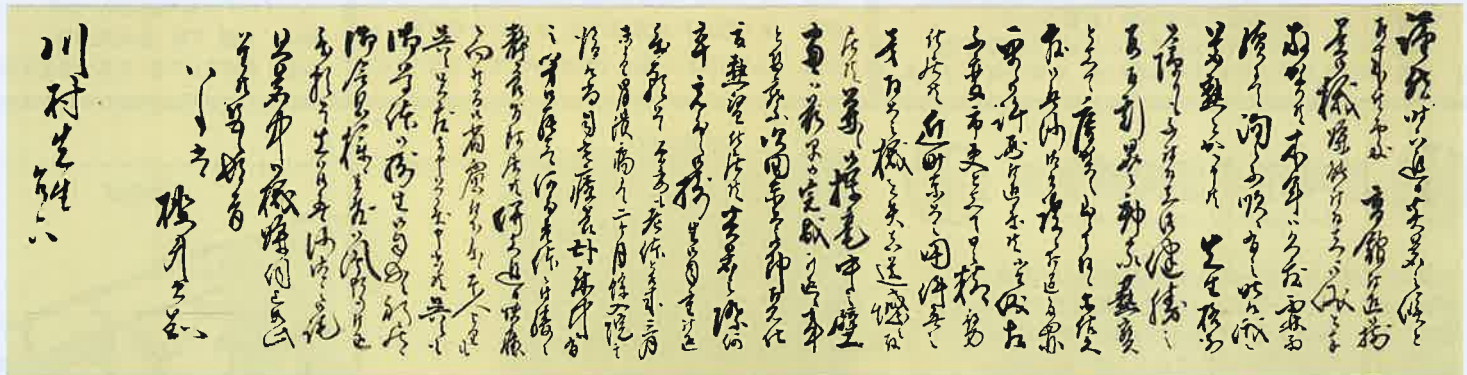
当館所蔵の櫻井忠剛自作写真帖に貼付された写真で、左は明治20年(1887)に開催された東京府工芸品共進会に櫻井忠剛が出品し受賞した《花猿》、右は明治23年(1890)に開催された第3回内国勲業博覧会に櫻井忠剛が出品し受賞した《鷺図》の写真です。いずれも川村清雄が櫻井名で出品した作品と考えられます。作品自体は未発見です。



当館所蔵の櫻井忠剛自作写真帖に貼付された写真で、左は明治20年(1887)に開催された東京府工芸品共進会に櫻井忠剛が出品し受賞した《花猿》、右は明治23年(1890)に開催された第3回内国勲業博覧会に櫻井忠剛が出品し受賞した《鷺図》の写真です。いずれも川村清雄が櫻井名で出品した作品と考えられます。作品自体は未発見です。



櫻井忠剛作画のこの2作品は、元は衝立の両面に描かれたものでした。左の《銅器の花と布袋の置物》(京都国立近代美術館所蔵)が、金箔を貼ったように油彩で背景を描き、それを下地に花と布袋という和の画題を描く一方で、右の《風景-海近く-》(兵庫県立美術館所蔵)は西洋的な風景を描いており、衝立の両面で和洋を使い分けることができたようになっていたものと考えられます。



本展が初公開となる櫻井忠剛が川村清雄に宛てた昭和6年(1931)8月5日付けの書簡です(東京都江戸東京博物館所蔵)。櫻井が市長として「日々精務」していること、「兼々御揮毫中之壁画」が完成したと思うので、次に上京した際に拝見を熱望していることなどを記述しています。この壁画とは、聖徳記念絵画館に奉納された《(振天府)》のことと思われます。本展では、櫻井が川村やその関係者に宛てた書簡・葉書(全て東京都江戸東京博物館所蔵)を13点展示します。上の書簡を含めて、その大半は本展が初公開となりますが、これらの書簡からは、櫻井が師・川村の画業を誇りとし、師を敬愛し続けていたことがうかがえます。